

---

「アジア宗教儀礼の比較研究」プロジェクトは、宗教儀礼を全体の研究の中心的テーマに据え、密接に関連する神話、宗教思想、芸能などとも関係付けながら、わが国のものを中国、朝鮮半島をはじめとするアジア諸地域のものと比較研究することで、起源にまで遡って新しい視点から抜本的に考究してみろという野心的な目標を掲げ、1987年度に発足した。初年度におけるプロジェクト・チームのメンバーは、生明慶二、坂本孝治郎、新川哲雄、諏訪哲雄、諏訪春雄、関根康正、黄強、徳田和夫、林田史子、吉田敦彦の10名で、1988年度には、すでに初年度から研究のための会合の多くに、外部よりの協力者として招聘されて参加し、助言と重要な寄与をしていた、中国の民間宗教儀礼研究の権威者である田仲一成が、正式のメンバーとなって加わった。その結果、主に諏訪春雄、黄強、田仲一成によって担当された、中国と日本の民間宗教儀礼および芸能の比較研究の分野では特に、発足時にわれわれが持っていた予想をはるかに越えるほど大きな、研究の進展が得られた。

ここに掲載したのは、その研究の成果の一部だが、各論文がそれぞれ、全体の共同研究を土台にしなが、取り上げた問題につき従来の学説の旧套を打破するところのある創見を打ち出したと自負している。大方の御叱正を賜われれば、幸いである。

1990年3月

「アジア宗教儀礼の比較研究」

プロジェクト・チーム

代表研究員 吉田敦彦

---